

株式会社 中電工

2021 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

2020 年 11 月 20 日



中電工

イベント概要

[企業名]	株式会社 中電工
[企業 ID]	1941
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2021 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2020 年度 第 2 四半期
[日程]	2020 年 11 月 20 日
[ページ数]	24
[時間]	9:00 - 9:25 (合計 : 25 分、登壇 : 25 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	1 名 代表取締役社長 迫谷 章 (以下、迫谷)

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

登壇

迫谷：皆さん、こんにちは。中電工の社長の迫谷でございます。

本日は、2020年度第2四半期決算について説明させていただきますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、動画配信とさせていただきます。何卒ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、決算説明資料等でご不明な点、ご質問等がございましたら、経営企画部、IR担当までご照会いただけたらと思います。

2020年度第2四半期業績（事業環境と当社グループの概況）

建設業界

- 公共設備投資は堅調に推移
- 一方、新型コロナ感染拡大により、民間設備投資の縮小や先送りが懸念

中国地域

- 新型コロナ感染拡大の影響により、民間設備投資の縮小
- 一部地域では、再開発の延期や中止の動き

当社グループの状況

- 中国地域の需要を確保しつつ、都市圏の拡大を進めてきた
- 新型コロナ感染拡大の当第2四半期の事業への大きな影響はなし

本日は、2020年度第2四半期の業績および業績予想、ならびに中期経営計画の取り組みについて説明をさせていただきます。

それでは、2020年度第2四半期の業績ですが、その前に2020年度の事業環境と当社グループの概況について少しお話をさせていただきます。

建設業界は、公共の設備投資は堅調に推移したものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、民間設備投資の縮小や先送りが懸念される状況にありました。

当社の営業基盤である中国地域も、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による民間設備投資の縮小のほか、一部の地域では、再開発の延期や中止の動きも見られました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

こうした中、当社グループは中国地域の需要を確保しながら、都市圏の拡大を進め、当第2四半期においては、新型コロナウイルス感染拡大の大きな影響はありませんでした。

2020年度第2四半期業績（損益計算書:連結）

対前年度「増収・増益」

- 売上高は増加（中電工個別▲7億円減、連結子会社78億円増）
- 営業利益は増加（中電工個別4億円増・連結子会社2億円増）

連 結 業 績	2019年度 第2四半期	2020年度 第2四半期	増減額	前年比
売 上 高	750億円	820	70	109%
売 上 原 価	662億円	711	48	107%
売上総利益 (11.8%)	88億円	109 (13.4%)	21	124%
販 管 費	62億円	76	14	124%
営 業 利 益 (3.5%)	26億円	32 (4.0%)	6	125%
経 常 利 益 (5.1%)	38億円	44 (5.4%)	6	117%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (3.9%)	29億円	29 (3.6%)	0	100%

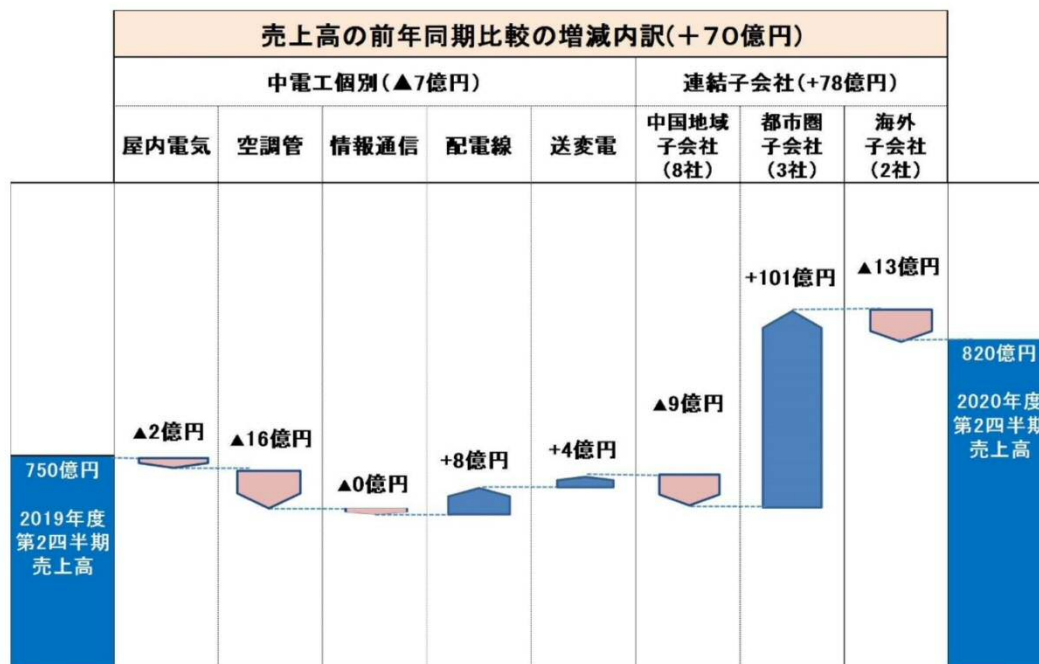
※()内は売上高利益率

それでは、2020年度第2四半期の連結の業績について具体的に申し上げます。

まず、損益計算書でございますが、前年度と比べ、増収・増益となりました。売上高は、中電工個別は減少しましたが、連結は昭和コーポレーションが加わったことなどにより増加し、前年度比70億円増の820億円となりました。

次に、営業利益は、売上高の増加により、売上総利益が増加したことで、6億円増の32億円となりました。経常利益は、6億円増の44億円。四半期純利益は、前年度にあった投資有価証券売却益がなかったことから、前年と同額の29億円となりました。

2020年度第2四半期業績（売上高の増減要因:連結）



5

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、この図は前年度、第2四半期の売上高 750 億円に対し、今年度は 820 億円と、70 億円増加した内訳を示しております。

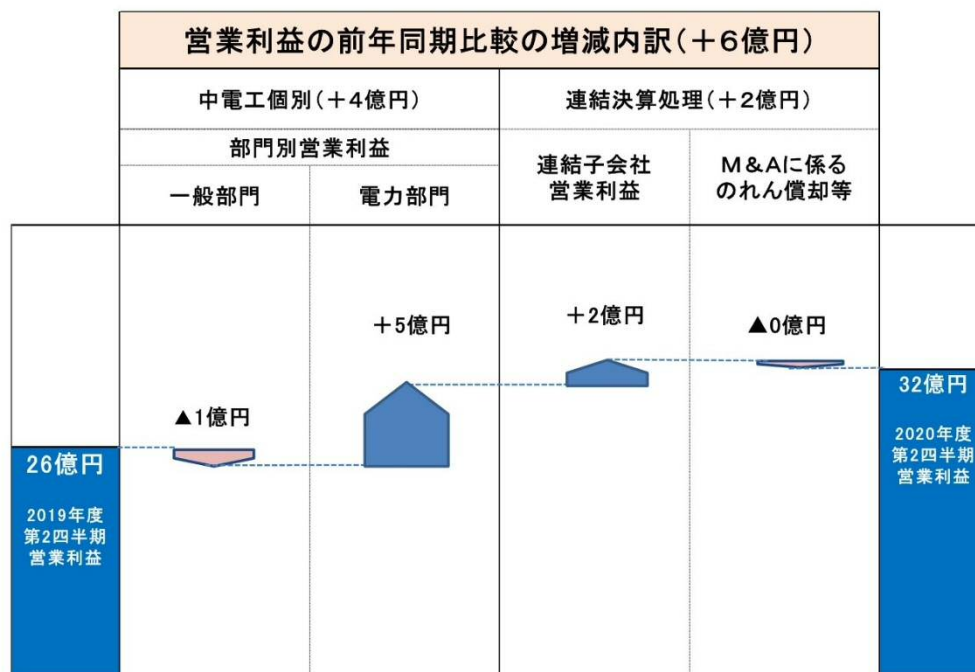
中電工個別では配電線が増加したものの、空調管などが減少し、7 億円の減少となっています。

一方、連結子会社は、中国地域で 9 億円、海外で 13 億円減少しましたが、新たに昭和コーポレーションが加わったことなどから、都市圏で 101 億円増加し、78 億円の増加となっています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2020年度第2四半期業績（営業利益の増減要因:連結）



6

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、第2四半期の営業利益は、前年度の26億円に対し、今年度は32億円で、6億円の増加となっております。中電工個別では、一般部門の売上高減少により、1億円減少しましたが、電力部門が増加し、4億円増加となっております。

次に、連結決算処理については、のれん償却は前年度と同額で、連結子会社の営業利益が増加し、2億円増加となりました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2020年度第2四半期業績（貸借対照表:連結）

	2020年3月末	2020年9月末	増 減	主な増減要因
流動資産	1,017億円	925	▲92	完成工事未収入金 ▲105
固定資産	1,731億円	1,731	▲0	
資産合計	2,749億円	2,656	▲92	
流動負債	477億円	374	▲103	支払手形等 ▲79 未払法人税等 ▲16
固定負債	151億円	147	▲3	
負債合計	629億円	522	▲106	
純資産合計	2,120億円	2,134	14	その他有価証券評価差額金 22 自己株式 ▲7
負債純資産合計	2,749億円	2,656	▲92	
自己資本比率	75.7%	78.9	3.2	

7

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、貸借対照表でございます。

資産合計の2,656億円は、前年度末に比べて完成工事が少なく、完成工事未収入金が105億円減少したことなどで92億円減少しました。

純資産合計は、有価証券の評価差額金が22億円増加したことなどで、2,134億円と14億円増加しました。

なお、自己資本比率は、前年度75.7%から3.2ポイント増加して、78.9%となりました。

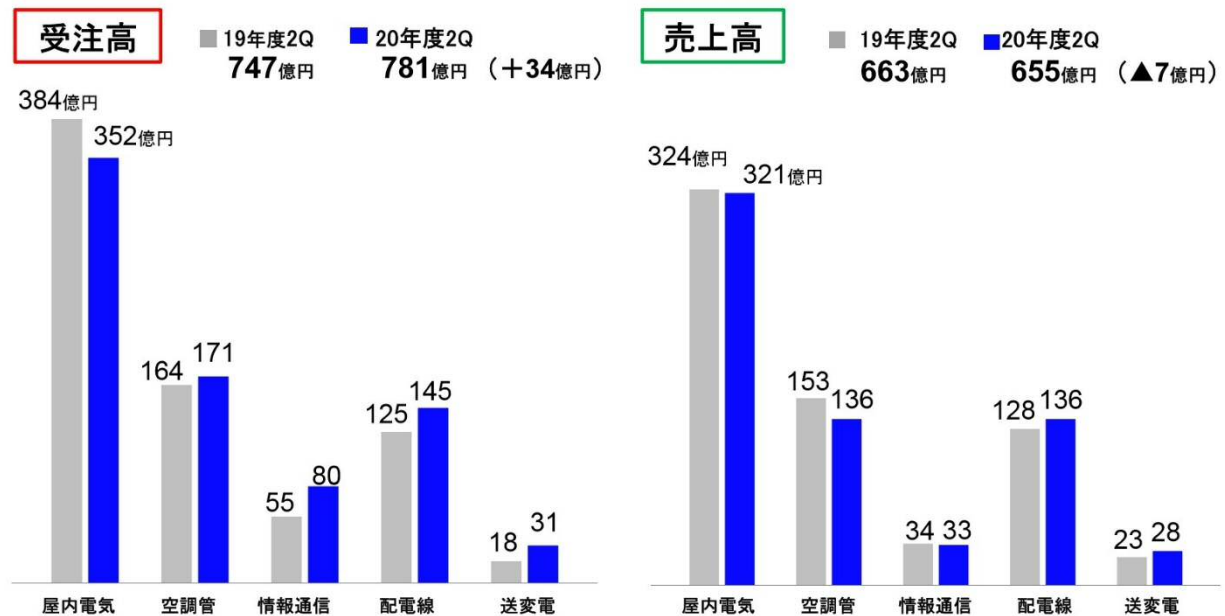
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2020年度第2四半期業績（部門別受注高・売上高:個別）

- 受注高は、781億円と対前年度34億円増（主に情報通信・配電線が増加）
- 売上高は、655億円と対前年度▲7億円減（主に空調管が減少）



8

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、中電工個別の部門別の受注高と売上高でございます。

左側の受注高は、全体で 781 億円と、前年度に比べ 34 億円増加しました。内訳は、屋内電気が工場関係の減少により 32 億円の減。一方、情報通信は GIGA スクールなどの大型工事の受注が好調で 25 億円の増、配電線が 20 億円、送変電も 13 億円増加しています。

右側の売上高は、配電線、送変電といった電力部門は増加したものの、ホテルやマンションの減少により、空調管が減少したことなどにより、全体で 655 億円と、前年度に比べ 7 億円減少しました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2. 2020年度業績予想

- 今後の事業環境は、新型コロナ感染拡大で不透明
- 売上高の拡大
 - ・ リニューアル工事の提案営業強化
 - ・ 工場工事の受注・施工体制強化
 - ・ 都市圏の営業基盤の拡充
- 利益の確保・拡大
 - ・ 原価管理の徹底
 - ・ ITの活用等による生産性の向上

次に、2020年度の業績予想でございます。

今後の事業環境は、新型コロナウイルス感染拡大の影響など、引き続き不透明な状況にありますが、業績予想の達成に向けて、中国地域におけるリニューアル工事の提案営業や、工場工事の受注・施工体制の強化、都市圏の営業基盤の拡充などを推進し、売上高の拡大を図ってまいります。

また、原価管理を徹底するとともに、ITの活用等による生産性の向上により、利益の確保・拡大に取り組んでまいります。

2020年度業績予想（損益計算書:連結）

「増収・増益」の見込み

- 売上高は増加（中電工個別▲43億円減、連結子会社184億円増）
- 営業利益は、前年度末に連結化した昭和コーポレーションが加わったことにより増益の見込み

連 結 業 績	2019年度実績	2020年度予想	増減額	前年比
売 上 高	1,688億円	1,830	141	108%
売上総利益 (12.6%)	212億円	(13.6%) 249	36	117%
販 管 費	129億円	161	31	124%
営 業 利 益 (4.9%)	83億円	(4.8%) 88	4	106%
経 常 利 益 (6.6%)	111億円	(6.1%) 111	▲0	99%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (2.8%)	47億円	(4.0%) 74	26	154%

※()内は売上高利益率

10

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

まず、連結の損益計算書でございます。

2020年度は、増収・増益を見込んでいます。売上高は、中電工個別は減少するものの、連結は昭和コーポレーションが加わったことなどで増加し、前年度から141億円増の1,830億円を見込んでいます。

営業利益は、中電工個別で1億円減少を見込むものの、連結子会社の増加により、4億円増の88億円を見込んでいます。

経常利益は、前年度と同額の111億円。

当期純利益は、前年度発生したのれんの減損や、保有株式の評価損がないため、26億円増の74億円を見込んでいます。

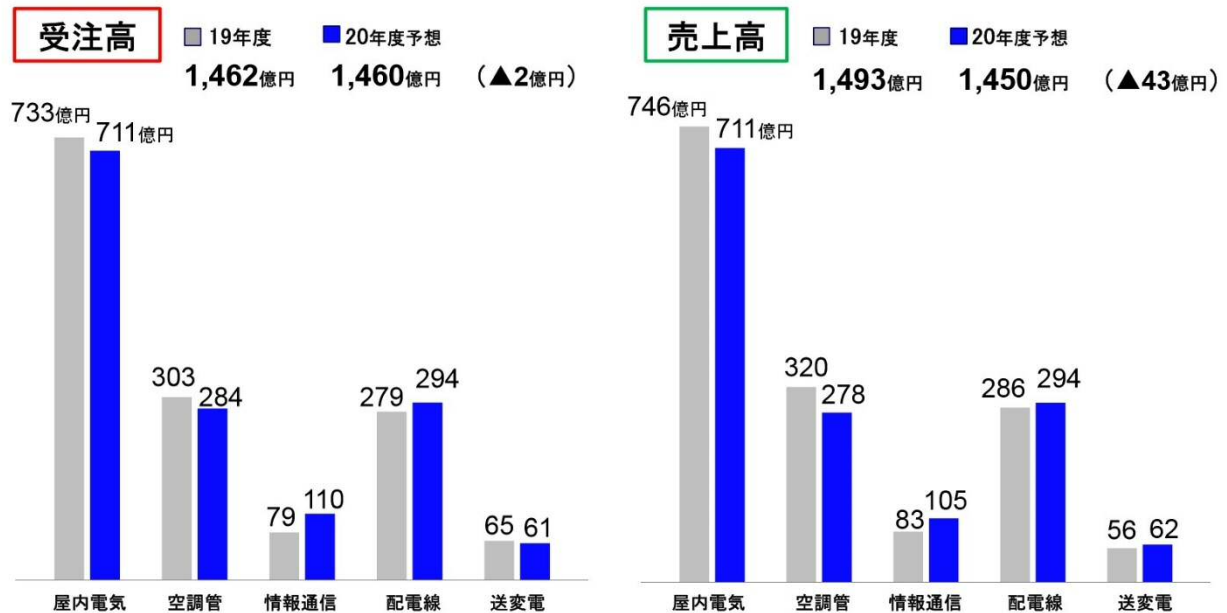
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2020年度業績予想（部門別受注高・売上高:個別）

- 受注高は、▲2億円の減少の見込み
- 売上高は、▲43億円の減少の見込み（屋内電気と空調管が減少）



11

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、個別の部門別受注高と、売上高でございます。

左側の受注高は1,460億円と、前年度比2億円減少の、ほぼ前年並みを見込んでいます。屋内電気と空調管が前年度を下回るものの、情報通信と配電線が増加し、全体としては前年並みを確保できると考えています。

右側の売上高は、配電線など、電力関係、情報通信が増加しているものの、学校空調等の大型工事が減少し、屋内電気や空調管の減が大きく、1,450億円と、前年度比43億円の減少を見込んでいます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

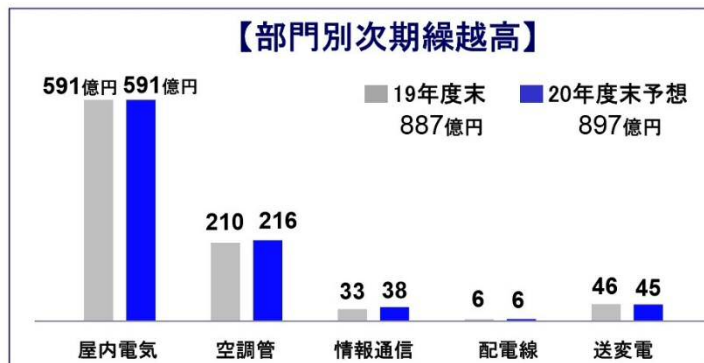
2020年度業績予想（受注高・売上高・部門別次期繰越高:個別）

➤ 前年度を下回るが、受注高・売上高は安定した水準を確保

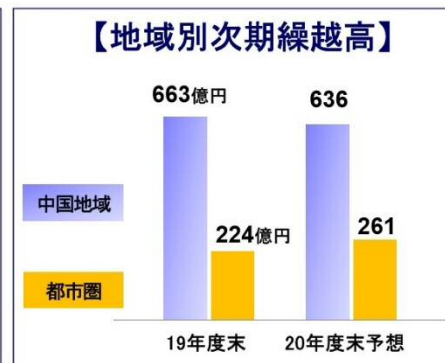
【受注高・売上高の推移】



【部門別次期繰越高】



【地域別次期繰越高】



12

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、個別の受注高・売上高の推移です。

折れ線グラフのとおり、19年度は完工物件が多く、売上高が大幅に増加したことで、売上高が受注高を上回りました。20年度は受注高が前年並みを確保する一方、売上が前年より減少し、受注高が売上高を上回る見込みです。とは言え、売上高は例年と比べ大変高い水準を維持しています。

繰越高も都市圏を中心に伸びて、前年度の887億円から897億円と、10億円程度上回る見込みです。

サポート

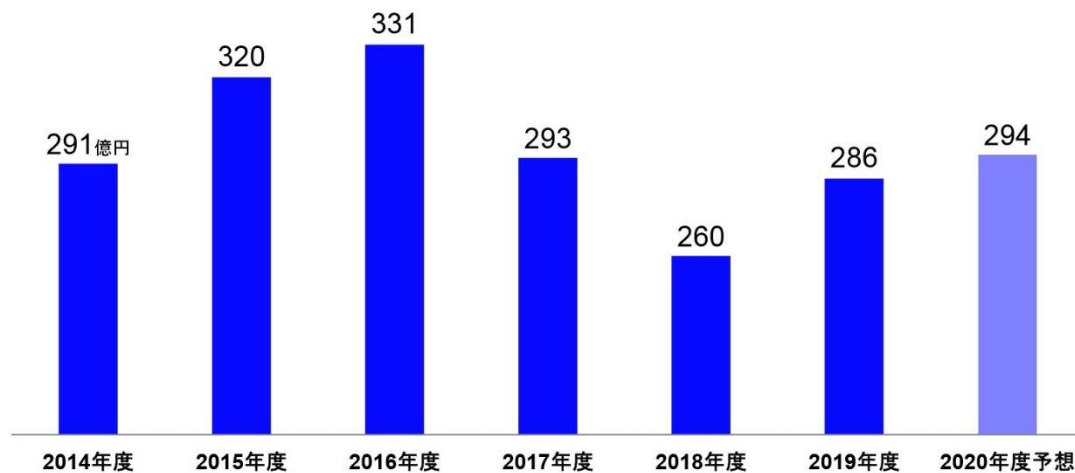
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2020年度業績予想（配電線工事:個別）

- 配電柱の更新需要の増加、一般工事の受注などにより売上高が増加
- 今後増加が見込まれる地中線工事の体制強化を図る

【配電線工事の売上高推移】



13

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

このグラフは、配電線工事の売上高の推移を示しています。

2016年度までは、電柱の更新事業により、売上高が増加しましたが、これらの更新需要が減少したことなどにより、2018年度は260億円と大きく減少しました。

こうした状況に対して、効率的な施工に向け、要員、組織体制の再構築、早期発注等による工事の平準化を進める中、配電柱の更新需要の増加、および一般工事の受注もあり、当年度は前年度を7億円上回る294億円を見込んでいます。

また、地中線工事も法改正の影響もあり、増加が見込まれますので、営業、施工体制を引き続き整備していきたいと考えています。

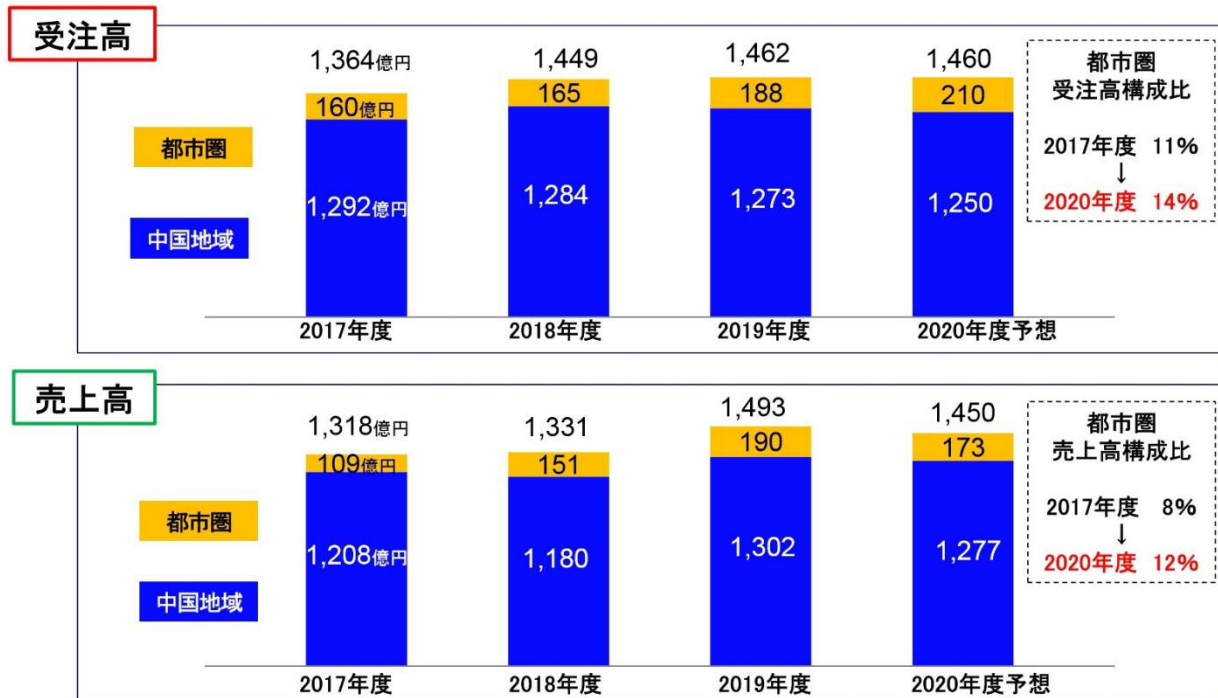
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2020年度業績予想（地域別受注高・売上高:個別）

➤ 中国地域の売上を維持しつつ、都市圏を拡大



14

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、個別の地域別受注高と売上高です。

成長戦略として、中国地域の売上を維持しつつ、需要の見込まれる都市圏の体制整備を進めてきております。

青色で示した中国地域の受注高・売上高は、1,200億円から1,300億円をしっかりと維持しております。

一方、事業拡大を進めている都市圏も、受注高は着実に増加してきております。売上高は前年度に大型物件の完工が集中した反動で減少しますが、高い水準を維持しており、売上高に占める割合も、3年前の8%から12%へと1.5倍に増加する見込みです。今後も中国地域の需要を維持しつつ、都市圏の拡大を図ってまいります。

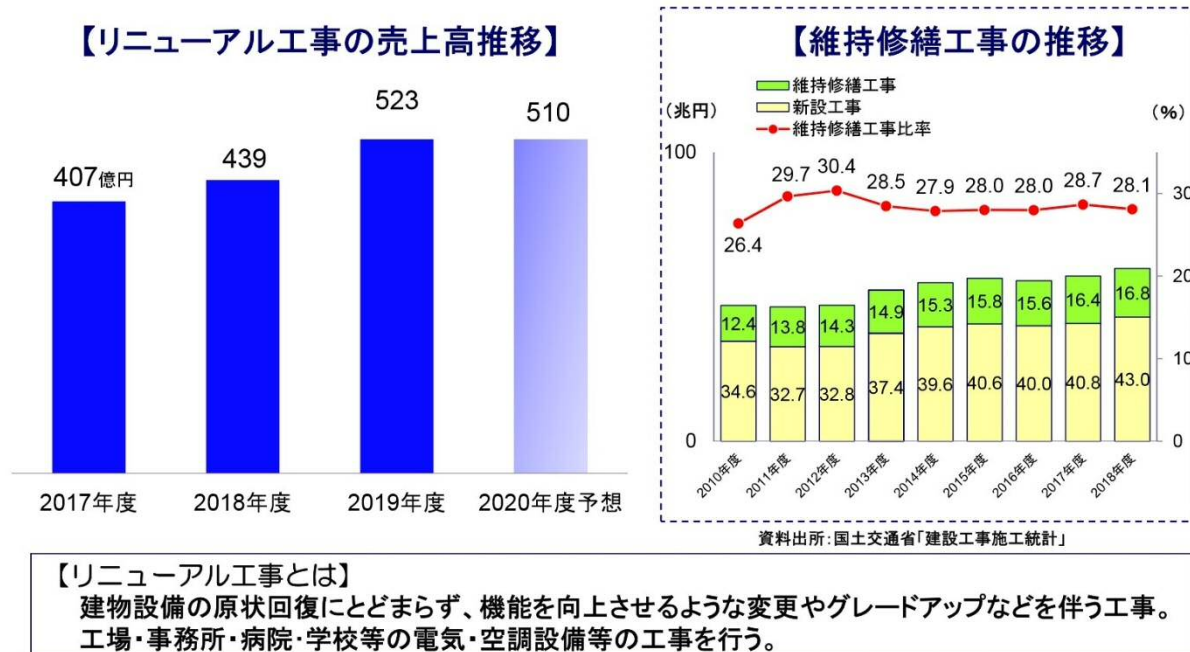
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2020年度業績予想（リニューアル工事：個別）

➤ 安定した売上高を今後も見込む



15

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、リニューアル工事についてです。

右側の国土交通省のグラフは、リニューアルと呼んでいる維持修繕工事が、建設工事全体の3割程度を占めていることを示しています。

当社においては、従来より提案営業によってリニューアル工事に積極的に取り組んできており、当社の一般部門の売上高の4割を超える水準まで増加してきており、事業の大きな柱となっています。

20年度の売上高は、学校空調関係工事の減少により前年度から若干減少を見込みますが、高い水準を維持しています。

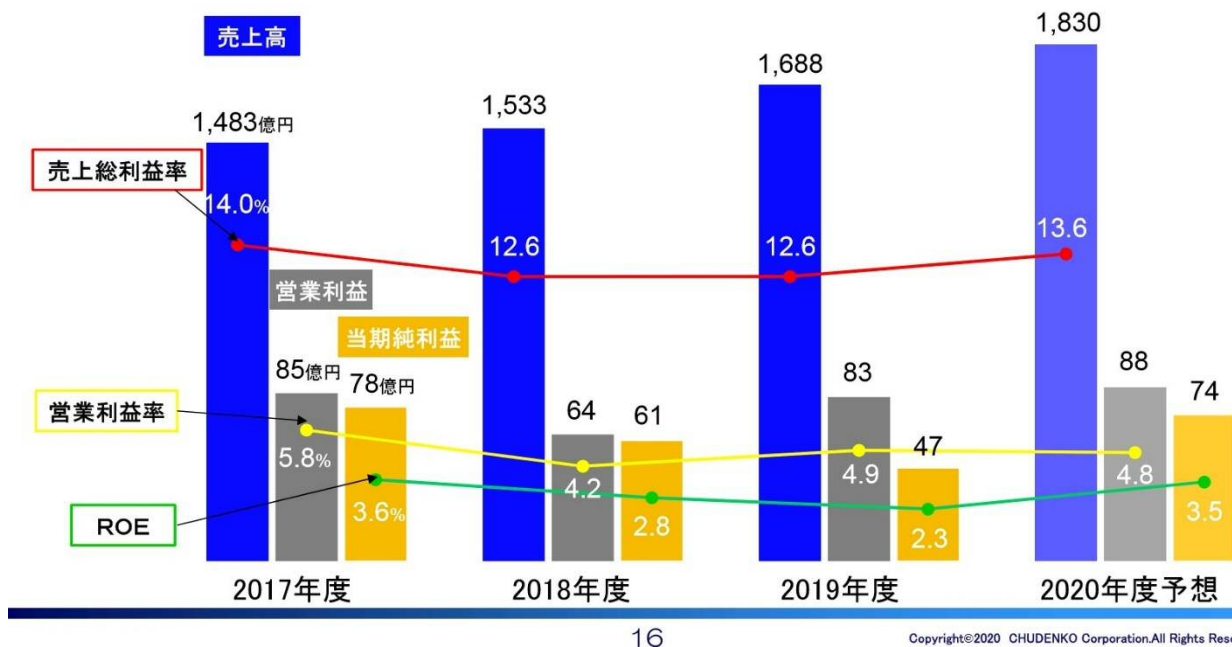
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2020年度業績予想（主な経営指標の推移:連結）

- 売上高は9期連続の増収、営業利益は2期連続の増益の見込み
- 売上総利益率とROEは上昇、営業利益率は低下の見込み



次に、主な経営指標でございます。

青色の棒グラフ、売上高は、2012年度から増収が続き、当年度の1,830億円で9期連続の増収となる見込みです。

赤色の売上総利益率は、厳しい受注競争において受注時の利益率が低下する中、効率化や原価管理の徹底により1ポイント上昇の13.6%を見込んでいます。

グレーの営業利益は、売上総利益が増加したことで2期連続の増益を見込んでいます。

一方、営業利益率は、のれんの償却等もあり前年とほぼ同じ水準となっています。

緑色のROEは、当期純利益の増加により1.2ポイント増加の3.5%を見込んでいます。

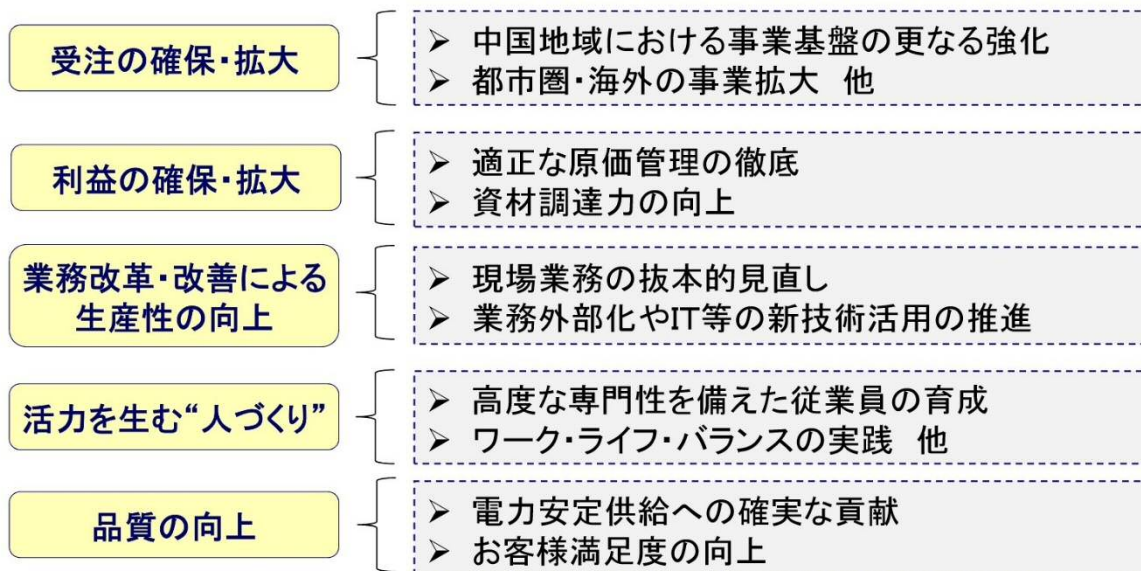
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

中期経営計画〔2018～2020年度〕の取り組み（テーマと主要施策）

テーマ 「変革と成長を遂げる中電エグループへ」

〔変革と成長を遂げるための主要施策〕



18

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、中期経営計画の取り組みについて説明いたします。

2018 年度にスタートした 3 カ年の中期経営計画も、いよいよ最終年度の終盤となりました。本日は、中期経営計画のこれまでの取り組み状況と、2020 年度の取り組みについて説明させていただきます。

なお、次期中期経営計画は、現在策定中でございます。来年 4 月にはお示しする予定としています。

現行の中期経営計画では、変革と成長をテーマに、五つの主要施策に取り組んでいます。

まず、受注の確保・拡大については、先ほども説明しましたが、中国地域の需要をしっかりと維持しながら、都市圏を中心に拡大しており、着実に実績を上げてきております。

次に、利益の確保・拡大についても、適正な原価管理、資材調達費の低減に加え、業務改革による効率化も相まって、利益率の向上等の改善が図られてきております。

次に、業務改革や IT の活用による生産性の向上の効果が顕在化しつつあり、引き続き強力に推進してまいります。

従業員の資格取得支援、技術力向上などの人材育成の成果が成長の基盤であり、引き続き人材の確保、育成に積極的に取り組んでまいります。

品質の確保はお客様の信頼の原点であり、引き続き電力の安定供給、お客様の設備の維持管理等をしっかりと対応してまいります。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



中期経営計画〔2018～2020年度〕の取り組み（取り組み方針）

【新たな強化策】

- ・工場工事の受注・施工体制の強化
- ・大型工事（20億円以上）の受注・施工体制の取り組み強化
- ・外部要員の適切な活用による原価低減
- ・フロントローディング等の時間軸管理による効率施工の推進
- ・施工図作成支援体制の強化による生産性の向上
- ・業務改革・改善の効果の顕在化による生産性の向上
- ・働き方改革の取り組みの加速



中期経営計画を確実に達成し、中長期ビジョン（2024年度・創立80周年）に繋げていく。

こうした主要施策をさらに強力に進め、中計最終年度の目標を達成するため、強化策として以下の取り組みを行っています。

一つは、工場工事の拡大のため、工場が多い広島、岡山、山口の3県を中心に、受注・施工体制を強化します。

また、都市圏の事業をさらに拡大するため、規模を上げて20億円以上の大型工事の受注、施工体制を強化します。

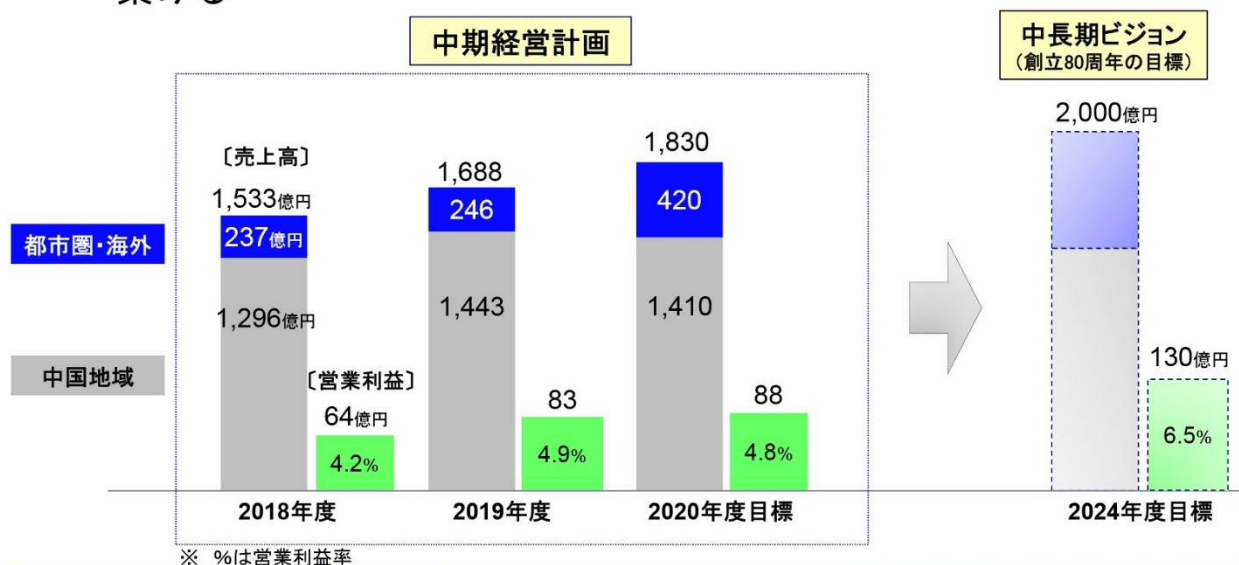
さらに、工事のピークカットを行うため、工程を前倒しするフロントローディング等により、施工の効率化を推進いたします。

この他、施工図作成の効率化やITの活用による業務改革の定着化、深掘りを進め、生産性の向上を図っていきます。

こうした施策を進めることで、80周年の2024年度の中長期ビジョンの達成に向けて、しっかりと対応していきたいと考えております。

中期経営計画〔2018～2020年度〕の取り組み（数値目標：連結）

- 中国地域の売上を維持しつつ、都市圏・海外を拡大
 - ⇒2020年度目標 売上高1,830億円、営業利益88億円
 - ⇒中長期ビジョンの2024年度 売上高2,000億円、営業利益130億円に繋げる



20

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、中期経営計画の数値目標です。

当初の売上高の目標は、1,650億円としておりましたが、2019年度で達成し、さらに昭和コーポレーションを連結化したこと等も勘案して、2020年度の売上目標を1,830億円に見直しました。

また、近年の激しい受注競争を勘案し、営業利益は当初目標の100億円を見直し、88億円としています。

厳しい状況ではありますが、リニューアル工事の提案営業の強化や都市圏の営業基盤の拡充などにより、売上を確保するとともに、原価管理の徹底や業務改革による生産性の向上により、さらなる利益確保に努めてまいります。

そして、この目標を達成することで、2024年度中長期ビジョンの目標売上高2,000億円、営業利益130億円につなげていきたいと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

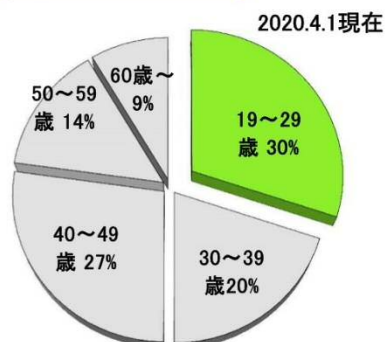


中期経営計画〔2018～2020年度〕の取り組み(人材の確保・育成)(個別)

定期採用者数

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2020.10.1現在 2021年度 予定
147名	132	133	119	138	135

年齢別構成



有資格者

資格名	15年4月	20年10月	増減
電気工事施工管理技士(1.2級)	917名	1,122	205
管工事施工管理技士(1.2級)	268名	282	14
技術士	34名	57	23

※施工管理技士(電気工事・管工事)の複数取得者 48名

30歳未満が3割

若年社員の成長

将来の施工能力UP

次に、当社の一番の財産であり中期経営計画の達成には欠かせない、人材の確保・育成について説明いたします。

近年、売り手市場で採用活動は厳しい状況が続いていますが、当社は130名前後の採用を継続しており、今年もほぼ計画どおりの135名の定期採用を予定しています。この若い層の早期育成、早期戦力化という観点から、特に事業で必要とする電気工事や管工事の資格を取得するよう奨励しています。

資格取得の奨励の成果として、有資格者が着実に増加し、施工力が強化されるとともに、技術力の向上により大型工事へのシフトが進み、売上高を増加させる原動力となっています。

円グラフを見ていただくと分かりますように、30歳未満の若い人が3分の1を占めており、こうした若い層の育成により、今後さらに当社の技術力、施工能力は向上していくと考えております。

中期経営計画〔2018～2020年度〕の取り組み（資本政策の具体策）

資本政策の具体策

持続的な成長のための投資

事業の拡大や人材の確保・育成等、持続的成長のために内部資金を活用することとし、300億円の投資枠を設定する。

中期経営計画や中長期ビジョンの目標達成のため、都市圏や海外の事業拡大を進める

- 2020年2月 昭和コーポレーションをグループ化
⇒ 引き続き、M&Aを積極的に検討

再生可能エネルギーへの投資に取り組む

- 2019年4月 中国電力と共同で、台湾・雲林県における洋上風力発電事業へ出資参画

次に、資本政策の具体策を説明いたします。

持続的な成長のための投資として、事業拡大や人材の確保・育成などに 300 億円の投資枠を設定し、諸施策を進めてきております。

19 年度の実績としては、本年 2 月に実施した M&A で、昭和コーポレーションをグループ化いたしました。この結果、連結業績に大きく貢献しており、今後、両社の強みを活かした連携強化により、両社のさらなる成長につなげていきたいと考えています。

また、再生可能エネルギーの導入、投資にも引き続き力を入れていきたいと考えており、その一つとして、19 年 4 月、中国電力と共同で台湾の風力発電所へ出資参画いたしました。

中期経営計画〔2018～2020年度〕の取り組み（株主還元）

株主還元

持続的・安定的な配当を行うことを重視し、DOE（連結株主資本配当率）2.7%を目処に配当を行う。
また、経営環境等を総合的に勘案したうえで、必要に応じて自己株式取得を実施する。

配 当

2020年度予想・・・DOE 2.79%（年間1株当たり配当金 104円）
（2020年11月11日現在 株価 2,158円 配当利回り 4.82%）

自己株式

2020年度・・・取得株式数:43万株（取得価格 9億円）

【参考】 2019年度・・・取得なし 2018年度・・・52万株取得

【参考】（2020年9月末現在）
発行済株式の総数 5,813万株（うち自己株式数243万株）

次に、株主還元についてです。

当社は持続的・安定的な配当を行うことを重視し、DOE、連結株主資本配当率 2.7%を目処に配当を行うこととしております。

また、経営環境等を総合的に勘案した上で、必要に応じて自己株式取得を実施することといたしております。

配当につきましては、2020 年度予想で DOE2.79%、年間 1 株当たり配当金 104 円としております。

自己株式につきましては、本年の 9 月に 43 万株、9 億円を取得しています。

中期経営計画[2018～2020年度]の取り組み（配当金・配当性向）

配当金・配当性向の推移



24

Copyright©2020 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

最後になりますが、配当金と配当性向の推移です。

棒グラフが1株当たりの配当金、赤の折れ線が配当性向を示しております。2014年度にDOEを採用し、2.0%目処から17年度には2.5%、18年度には2.7%と、率を上げながら増配をしてきております。

2020年度も19年度と同額の104円の配当を予想しており、中間では、その半分の52円を配当することとしております。

以上で説明を終わります。なお、以下の資料は参考資料であり、説明は省略いたします。

ご視聴ありがとうございます。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行いうものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com